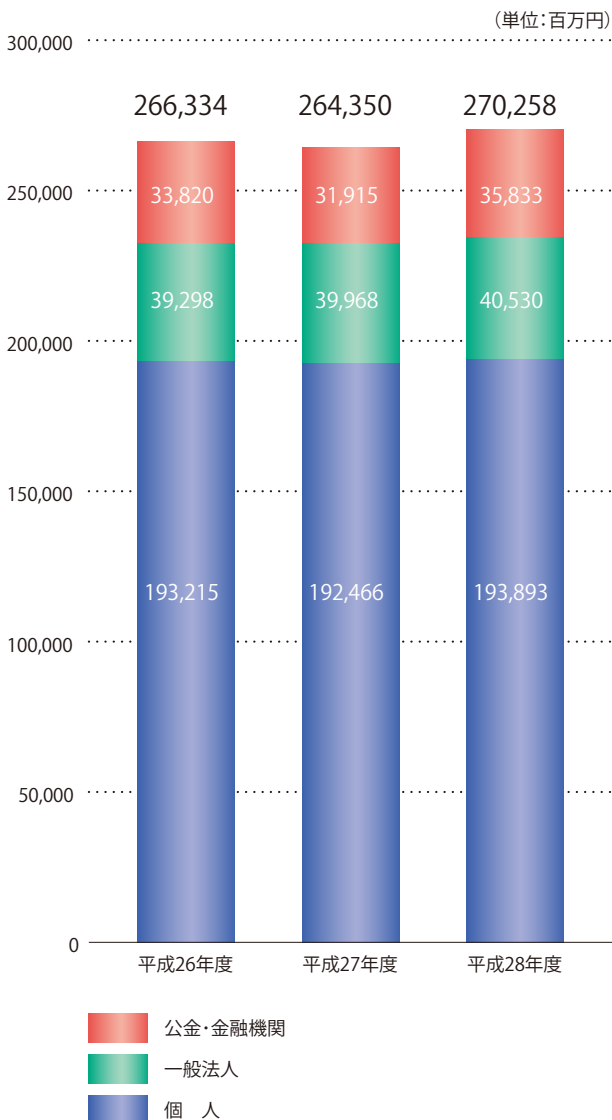


業績ハイライト

預金積金残高

多くのお客さまに支持され、主力の個人預金、一般法人・公金預金においても増加しました。

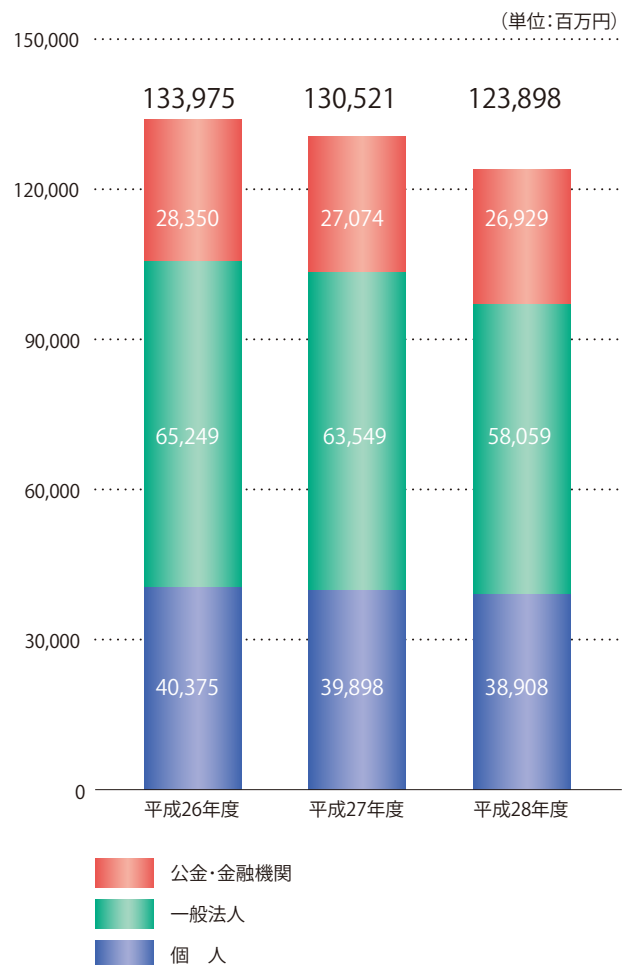
平成28年度(平成29年3月末)の総預金残高(譲渡性預金を含む)は2,702億円となりました。人口減少等厳しい地域環境の中で預金量の大層を占める個人のお客さまからの預金が増加、加えて公金預金、一般法人預金も堅調に推移し前年度対比59億円の増加となりました。



貸出金残高

人口減少、高齢化等地域経済の低迷から低位に推移しました。

平成28年度(平成29年3月末)の総貸出金残高は1,238億円となりました。一般法人および個人は、厳しい地域経済の影響を受け設備資金の低迷や住宅ローン需要が低下、このほか公金・金融機関の約定償還もあり、前年度対比66億円の減少となりました。



※金額単位未満は切り捨てて表示しております。
 ※平成26年度、平成27年度の残高は、江差・函館両金庫の計数を単純合算したものです。

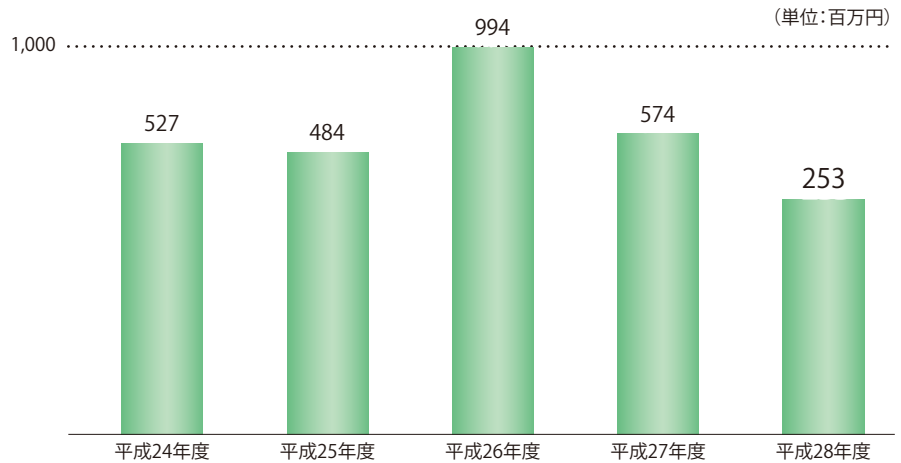
業務純益・経常利益・当期純利益

皆さまに安心してお取引いただけるよう、安定した収益確保に努めております。

合併による費用が増加しましたが、財務基盤の拡大により資金運用収益は増加し、当期純利益は383百万円を確保することができました。

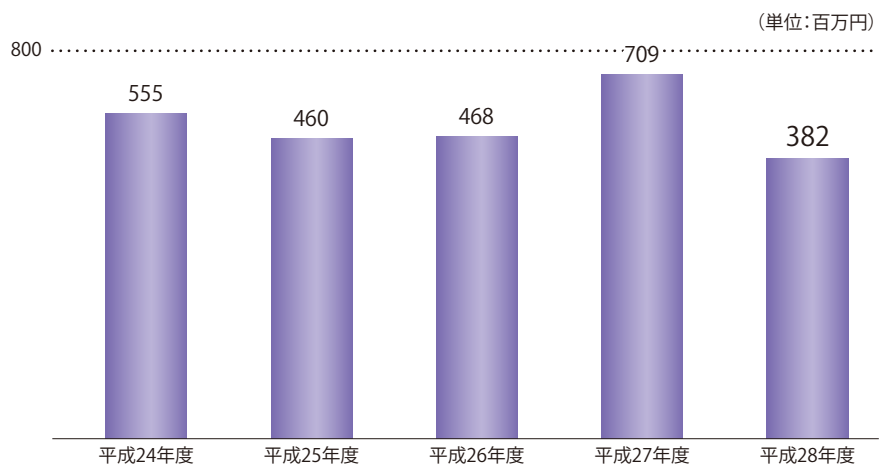
■業務純益

本来の事業活動でいくら利益を出したのか。金融機関の収益状況を最も的確に示している重要な指標といわれています。



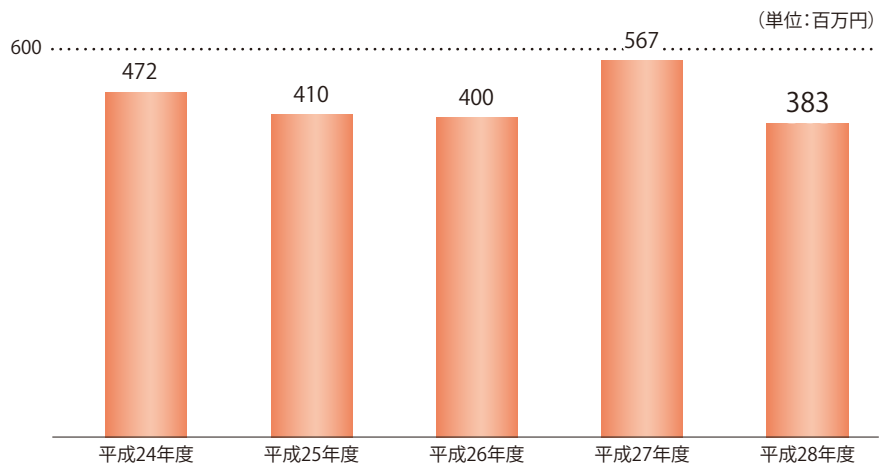
■経常利益

経常収益から経常費用を引いたもので、毎年生じる通常の利益を表すものです。



■当期純利益

経常利益から特別損益を調整し、税金等を差し引いたもので、最終的な利益です。



※金額単位未満は切り捨てて表示しております。
※平成27年度以前の計数は、旧江差信用金庫の数値を掲載しております。

自己資本 健全性にかけては自信があります。

当金庫は自己資本総額として188億円を有し、自己資本比率は18.52%と国内基準の4%の4倍を超える高水準を維持しており、ゆるぎない安全性を確保しております。

当金庫の自己資本は、約8割(151億9百万円)が利益剰余金(毎期の利益を積立ててきた内部留保)です。

自己資本比率

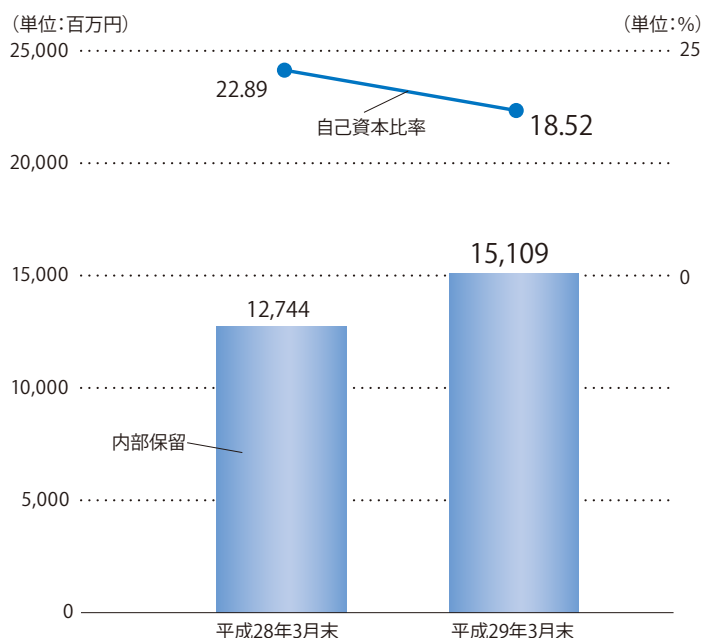
18.52%

自己資本額

188億5千万円

自己資本の重要性

自己資本は、運用している資産が不良化や回収不能となり損失が発生した場合、これらに対する蓄えとしての役割を果たしてくれるもので、自己資本比率が高いことは蓄えを多く持っていることであり、健全性をあらわす重要な指標といえます。



自己資本比率

(単位:百万円・%)

項目	平成28年3月末	平成29年3月末
コア資本基礎項目 (A)	13,384	18,997
コア資本調整項目 (B)	44	146
自己資本総額[A-B] (C)	13,340	18,851
リスク・アセット等 (D)	58,273	101,785
単体自己資本比率 (C)/(D)×100	22.89	18.52

※詳細は42ページに記載しております。

自己資本比率の算出方法

自己資本比率は、自己資本額を分子とし、リスク・アセットを分母として算出します。分母となるリスク・アセットは、資産ごとの回収リスクに応じて算出することになっており、現金や国債などの回収リスクの少ない資産は分母に入れなくてもよいことになっています。